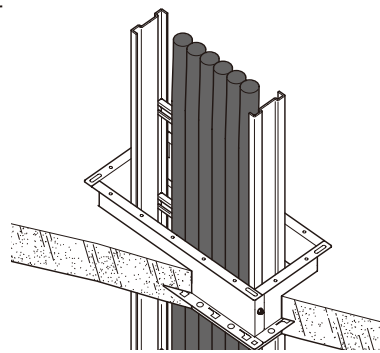


# 鋼製スリーブ床貫通部の施工手順

## 床への施工に際して（施工前にご確認ください。）

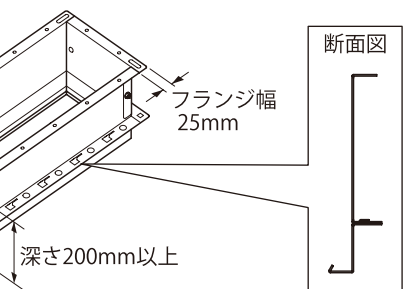
### ●鋼製スリーブの設置について

予め、貫通部に鋼製スリーブを設置し、ケーブル及び周辺を清掃します。鋼製スリーブの施工は、鋼製スリーブのキット付属の取扱説明書により行ってください。



### スリーブの寸法条件

AS□  
鋼板製  
板厚1.6mm以上



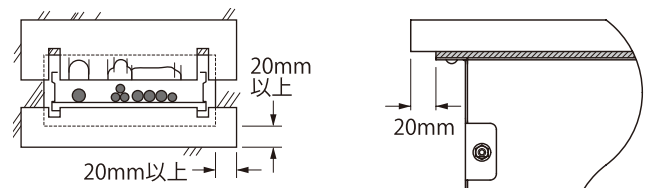
### 【認定条件】

国土交通大臣認定番号：PS060 FL-0223  
最大開口面積：0.6㎡以下  
適用可能ケーブルサイズ：325mm<sup>2</sup>（导体サイズ）以下  
ケーブル占積率：15%以下  
貫通する床の構造等：鉄筋コンクリート（厚さ100mm以上）  
（ただし、中空床を除く）

品番	適合するスリーブサイズ	対応する標準品スリーブの品番
PK25-3020	300×200	AS3020
PK25-4020	400×200	AS4020
PK25-5020	500×200	AS5020
PK25-6020	600×200	AS6020
PK25-7020	700×200	AS7020
PK25-8020	800×200	AS8020
PK25-9020	900×200	AS9020
PK25-10020	1000×200	AS10020
PK25-11020	1100×200	AS11020
PK25-12020	1200×200	AS12020

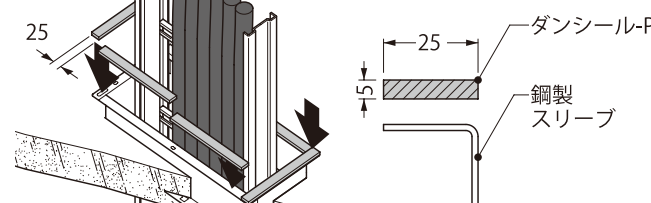
## 1. 耐火仕切板25の切断

耐火仕切板25の切断については、中空壁貫通部の施工手順の1を参照ください。この時、スリーブのフランジ部から耐火仕切板25の突き出しを20mm以上とします。（下図参照）



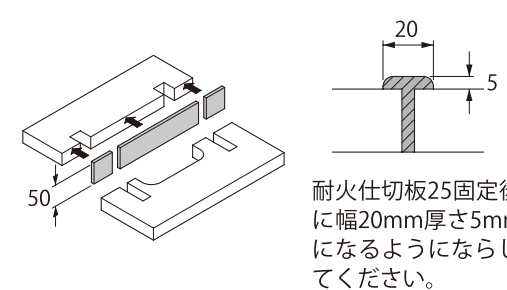
## 2. ダンシール-P（シート）の貼り付け

ダンシール-P（シート）を25mm幅に切断して鋼製スリーブのフランジに貼り付けます。※鋼製スリーブのコーナー部に隙間がある場合は鋼製スリーブ内側からダンシール-Pで埋めてください。

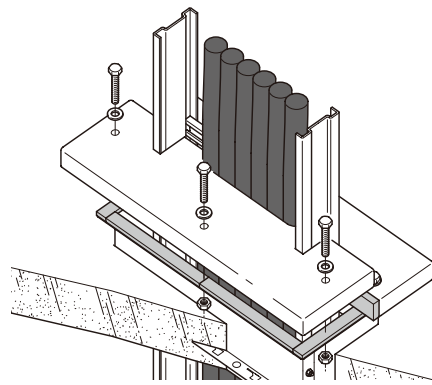


## 3. 耐火仕切板25の固定

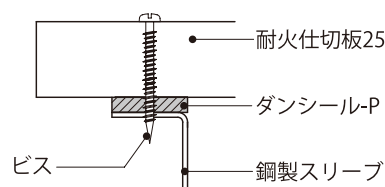
① 耐火仕切板25の上板と下板の間に幅50mm程度に切断したダンシール-Pを挟みこみます。



② 板の位置決めをした後、鋼製スリーブのボルト穴に合わせて、耐火仕切板25にドリル（φ8）で下穴をあけます。その後、市販のボルト・ナット・平座金（M6×40以上）でフランジに固定します。※固定ボルトは300mm以下の間隔で施工してください。

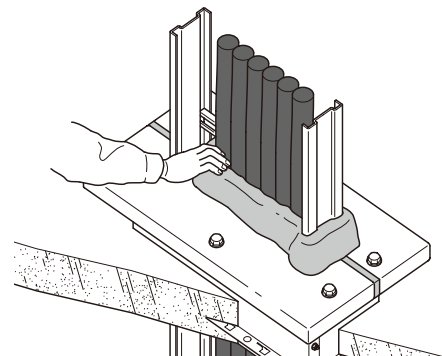


※フランジ部に穴があいていない鋼製スリーブの場合は、直接耐火仕切板25とスリーブのフランジ部をビス止めてください。

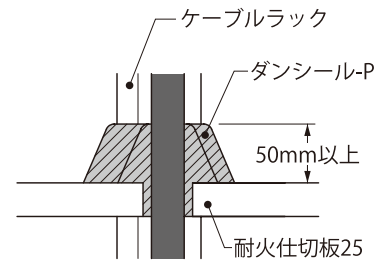


## 4. ダンシール-Pの充填

① ダンシール-Pを耐火仕切板25の表面から50mm以上盛り上げ成形します。

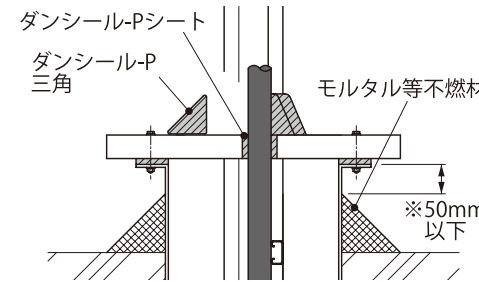


※床貫通部の施工では、ダンシール-P支持棒は使用しません。

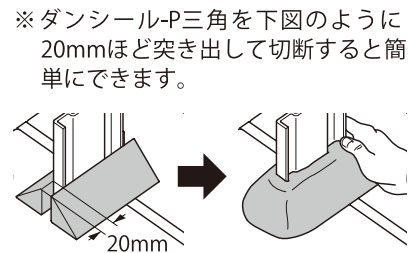


### 〈ダンシール-P（シート）の目詰め方法〉

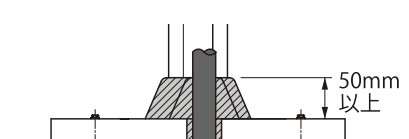
① ダンシール-P（シート）を使い、耐火仕切板25とケーブル及びケーブルラックの隙間を下図のように目詰めを行い、ダンシール-P三角をケーブル及びケーブルラック周囲を挟み込むように充填します。



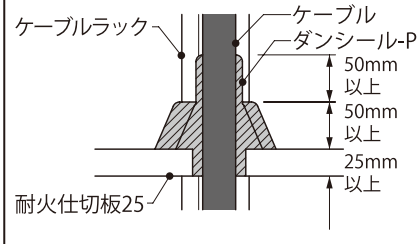
※金属部分の露出が50mm以下となるようにモルタル等の不燃材料で覆ってください。



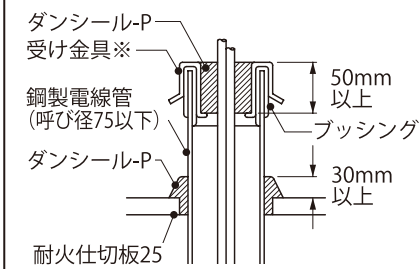
② 耐火仕切板25の表面から50mm以上になるように盛り上げ成形します。



●ケーブル导体サイズが325mm<sup>2</sup>の場合、さらにダンシール-P（厚さ5mm）を50mm巻き付けてください。



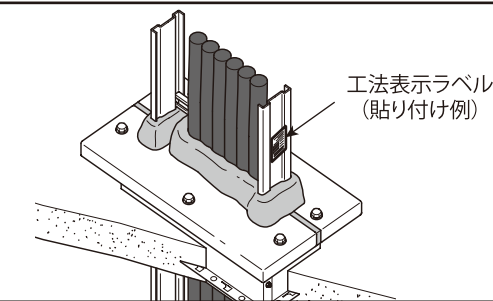
### ●鋼製電線管（長さ290mm以上）の施工について



※バテを支える機能を持たせるようにφ2mm以上の鋼線を成型したものであればご使用頂けます。各電線管同士を耐熱シール材の措置ができる間隔（60mm）以上をあけてください。（2段重ねや、他のケーブルに接するような配置はできません。）

## 5. 施工完了

最終仕上がりを確認して施工完了です。最後に工法表示ラベルを見える位置に貼り付けてください。



### ⚠️ ご注意

- 壁貫通部の場合、ケーブル及びケーブルラック周囲のダンシール-Pの支持が上下に必要となります。キット品付属の支持棒で支持を行ってください。
- 合成樹脂製可とう電線管の貫通はできません。（床・壁貫通部）
- 鋼製電線管の貫通はできません。（壁貫通部）
- 床ピット内の施工については認定外になります。
- バスダクト、金属ダクト貫通部の施工については、弊社にお問い合わせください。

### 必要工具

- 充電式ドリルドライバー（キリは鉄用φ3.4、φ5）
- ジグソー
- 丸のこ
- 振動ドリル（キリはコンクリート用φ5.3）
- ブラスドライバー
- 六角ビット
- 掃除機

### 工法表示ラベルについて

1. 工法表示ラベルは、本製品に1枚同梱しております。
2. 工法表示ラベルを紛失した場合は、弊社ホームページ（右記）から請求できます。

技術事項のお問い合わせは  
株式会社古河テクノマテリアル 防災事業部  
〒254-0016 神奈川県平塚市東八幡5-1-8  
TEL (0463) 24-9341 FAX (0463) 24-9346  
ホームページアドレス <https://www.furukawa-ftm.com>

製品の仕様はお断りなく変更することがあります。

FT-取説-第21009-A号 2025.02

## ケーブル貫通部防火措置キット

# イチジカゴ<sup>ビニケ</sup>-PK25キット

国土交通大臣認定

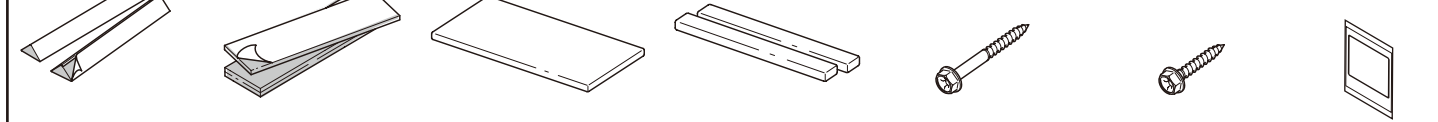
PS060 FL-0223 (床)  
PS060 WL-0274 (壁)

### 取扱説明書

このたびは、本製品をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本紙をよくお読みの上、現場の状況に合わせて正しく施工してください。

### 梱包内容

ダンシール-P三角 1枚  
ダンシール-P（シート） 1枚  
耐火仕切板25 1枚  
ダンシール-P支持棒 1本  
壁固定用アンカー（六角M6×75） 1本  
支持棒固定用ねじ（六角M6×45） 1本  
工法表示ラベル 1枚



※鋼製スリーブへの固定用ボルト・ナットは同梱されておりません。詳しくは床施工手順3をご参照ください。

品番	適合		構成材料						梱包
	開口サイズ (mm)	ケーブルラック幅 (mm)	ダンシール-P (kg) 三角 シート	耐火仕切板25 25mm厚 L×W (mm)	ダンシール-P 支持棒 25mm厚 (本)	壁固定用アンカー (本)	支持棒固定用ねじ (本)	取扱説明書・工法表示ラベル	
PK25-3020	300×200	200	1.1 1.1	400×300	2	6	4	各1枚	1箱/1組
PK25-4020	400×200	300	2.1 1.0	500×300	2	6	4		
PK25-5020	500×200	400	2.1 1.4	600×300	2	6	4		
PK25-6020	600×200	500	2.1 2.3	700×300	2	6	4		
PK25-7020	700×200	600	3.2 1.7	800×300	4	6	8	各1枚	2箱/1組
PK25-8020	800×200	700	3.2 1.9	900×300	4	8	8		
PK25-9020	900×200	800	3.2 2.4	1000×300	4	8	8		
PK25-10020	1000×200	900	4.2 2.2	1100×300	4	8	8		
PK25-11020	1100×200	1000	4.2 2.3	1200×300	4	8	8		
PK25-12020	1200×200	1000	4.2 2.7	1300×300	4	8	8		

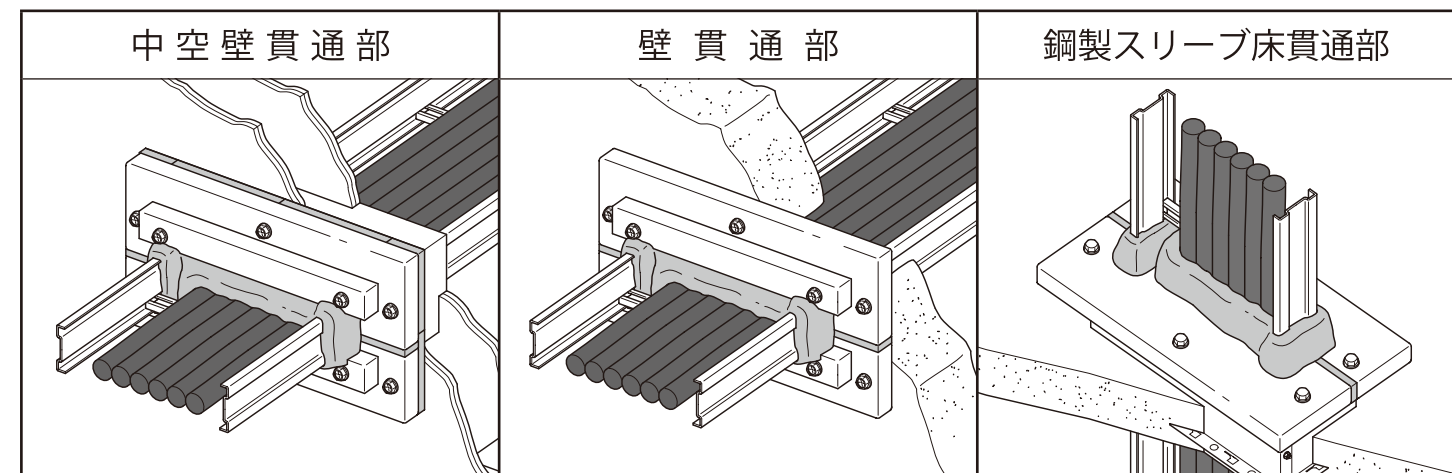
※キット品は開口面積0.24㎡まで取り揃えております。これを超える開口面積の場合は、上記の品番を組み合わせてご使用になるか、または別途弊社にご相談ください。

※ダンシール-Pの所要量は、貫通ケーブルラック幅の65%程度を占めた状態で算出してしております。所要量に不足が生じる場合には、別売品のダンシール-Pをお買い求めください。

※耐火仕切板25は片面化粧研磨仕上、片面荒仕上になっております。

### 特長

- ①耐火仕切板を使用する片側工法です。中空壁にもコンクリート壁にも施工できます。開口面積0.6㎡以下に対応できます。（キット品は0.24㎡までの品揃え）
- ②床貫通部の鋼製スリーブ開口にも施工できます。開口面積0.6㎡以下に対応できます。（キット品は0.24㎡までの品揃え）
- ③床貫通部については、鋼製電線管（呼び径75まで）も貫通できます。

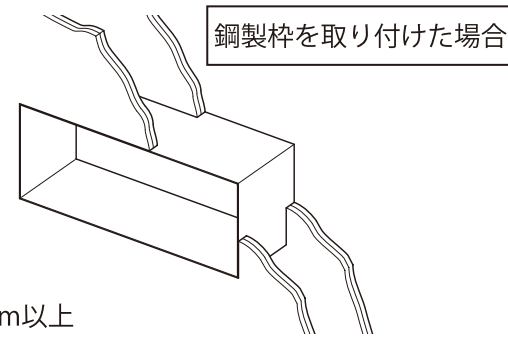


# 中空壁貫通部の施工手順

## 中空壁への施工に際して（施工前にご確認ください。）

●中空壁（石膏ボード壁など）への施工に際して内部が中空の壁の場合、開口の内側に次の(1)～(3)のいずれかの方法で開口補強枠を設置した上で、施工を行ってください。

- (1) 軽量鉄骨の間柱等を利用
- (2) 鋼製枠（板厚0.8mm以上）の取り付け
- (3) 壁材と同等の材質（石膏ボード等）の枠の取り付け



鋼製枠を取り付けた場合

総壁厚：80mm以上

### 【認定条件】（中空壁・壁用）

国土交通大臣認定番号：PS060 WL-0274

最大開口面積：0.6㎡以下

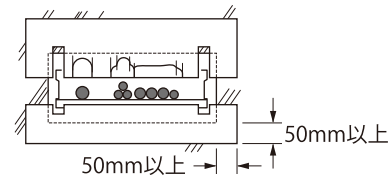
適用可能ケーブルサイズ：325mm<sup>2</sup>（導体サイズ）以下

ケーブル占積率：20%以下

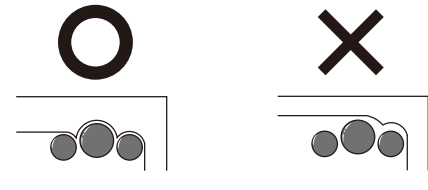
貫通する壁の構造等：建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造（60分）において、国土交通大臣が認定した壁（厚さ80mm以上）（ただし、鉄筋コンクリート造及びALCパネルにおいては厚さ70mm以上）  
建築基準法施行令115条の2の第2項第一号の規定に基づく準耐火構造（60分）（ただし、両面強化石膏ボードに限る、中空壁の場合は鋼製または壁を構成する壁材と同等の材料による開口補強を設けること）

## 1. 耐火仕切板25の切断（床・壁共通） ※耐火仕切板25は片面化粧研磨仕上、片面荒仕上になっております。

開口部・ケーブルラック及びケーブル形状に合わせて耐火仕切板25を切断加工します。この時、壁面と耐火仕切板25の被り代は50mm以上とします。



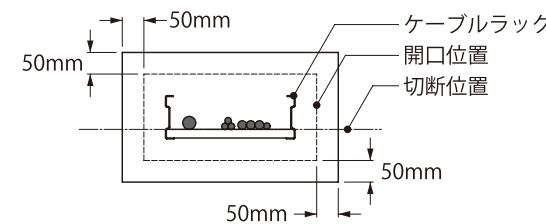
※電動工具等は取扱説明書に基づき安全に使用し、ケガのないように注意してください。  
※切断する際には粉塵マスクなどを着用してください。



※ケーブルラック及びケーブルの形取りが大きすぎないように注意してください。（2～3mm大きめに切り込みます。）

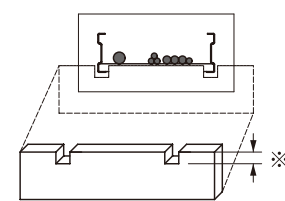
### ①耐火仕切板25の切断

ケーブルラックの子桁上面を基準に耐火仕切板25を丸ノコ等で切断します。



### ②下板の切り込み

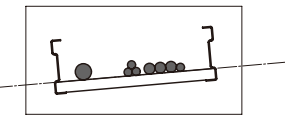
ラック下側に取り付ける耐火仕切板25を親桁下部の形状に合わせてけがいてジグソー等で切り込みます。



※ラックの子桁上面からラックの親桁下面の長さ+2～3mm分を切り込みます。

### ③上板の切り込み

ラック上側に取り付ける耐火仕切板25を親桁上部及びケーブルの外周の形状に合わせてけがいてジグソー等で切り込みます。



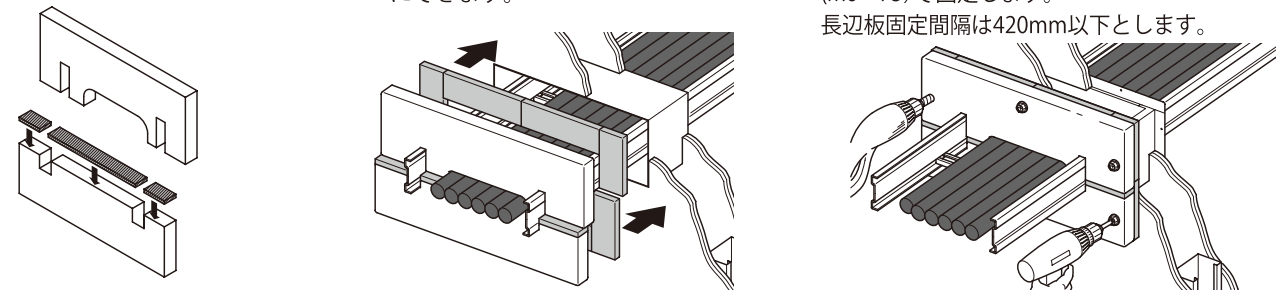
※ラックの子桁上面からラックの親桁上面の長さ+2～3mm分を切り込みます。

## 2. 耐火仕切板25の固定

①耐火仕切板25の上板と下板の間に幅30mm程度に切断したダンシール-Pを挟みこみます。

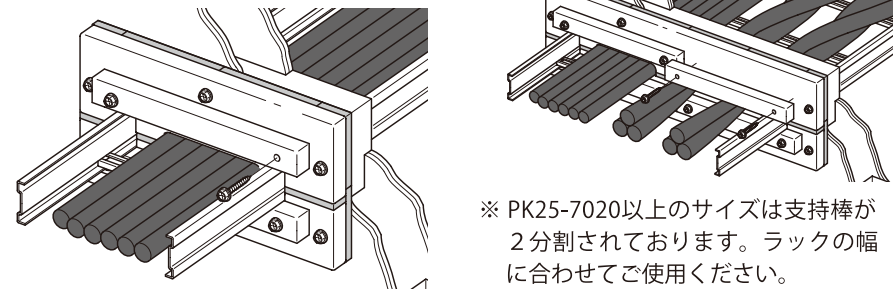
※壁が平坦でない場合には、ダンシール-P（シート）を壁面と耐火仕切板25の間に貼り付けると作業が楽にできます。

②位置決めした後、耐火仕切板25にドリルで下穴(φ5)をあけ、壁面にも下穴(φ3.4)をあけて充電ドリルドライバー等で固定用アンカー(M6×75)で固定します。長辺板固定間隔は420mm以下とします。

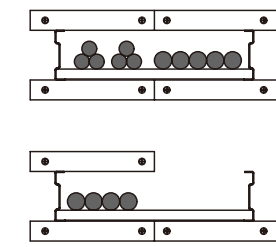


## 3. ダンシール-P支持棒の取り付け

ダンシール-P支持用として付属の支持棒をケーブルラックの上下（またはケーブル上下）に取り付けます。



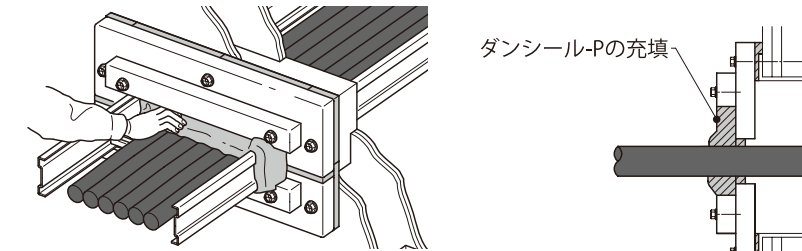
※PK25-7020以上のサイズは支持棒が2分割されております。ラックの幅に合わせてご使用ください。



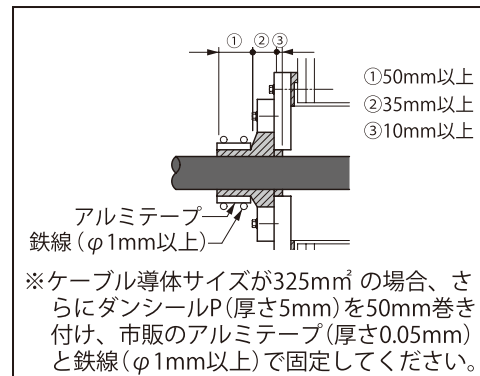
※ケーブルが部分的にしか配線されていない場合は上図のように支持棒を取り付けておくことも可能です。

## 4. ダンシール-Pの充填

ダンシール-Pを耐火仕切板25の表面から35mm以上盛り上げ成形します。



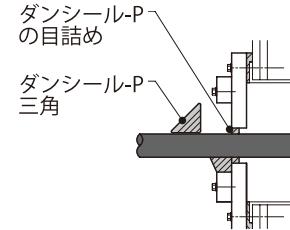
ダンシール-Pの充填



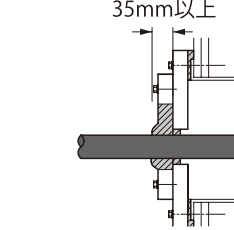
アルミテープ（厚さ0.05mm）と鉄線（φ1mm以上）で固定してください。  
※ケーブル導体サイズが325mm<sup>2</sup>の場合、さらにダンシール-P（厚さ5mm）を50mm巻き付け、市販のアルミテープ（厚さ0.05mm）と鉄線（φ1mm以上）で固定してください。

### 〈ダンシール-Pの目詰め方法〉

①ダンシール-P（シート）を使い、耐火仕切板25とケーブル及びケーブルラックの隙間を右図のように目詰めを行い、ダンシール-P三角をケーブル及びケーブルラック周囲を挟み込むように充填します。

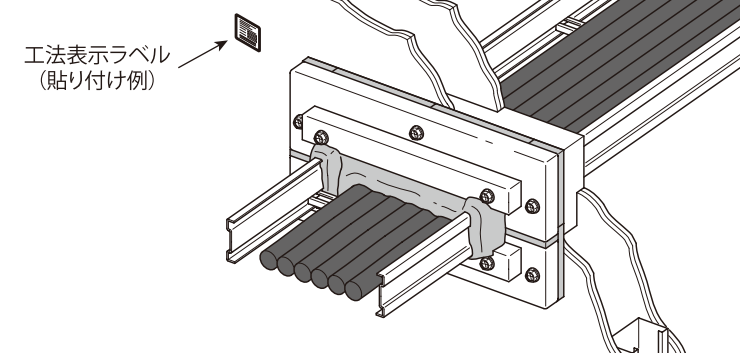


②ダンシール-P三角と支持棒の隙間の充填を行い耐火仕切板25の表面から25mm以上盛り上げ成形します。さらにケーブル周囲は35mm以上になるよう盛り上げます。



## 5. 施工完了

最終仕上がりを確認して施工完了です。最後に工法表示ラベルを見える位置に貼り付けてください。



工法表示ラベル（貼り付け例）

# 鉄筋コンクリート・ALC壁貫通部の施工手順

## 1. 耐火仕切板25の切断 ※中空壁貫通部の施工手順1を参照ください。

## 2. 耐火仕切板25の固定

①耐火仕切板25の上板と下板の間に幅30mm程度に切断したダンシール-Pを挟みこみます。

※壁が平坦でない場合には、ダンシール-P（シート）を壁面と耐火仕切板25の間に貼り付けると固定が楽にできます。

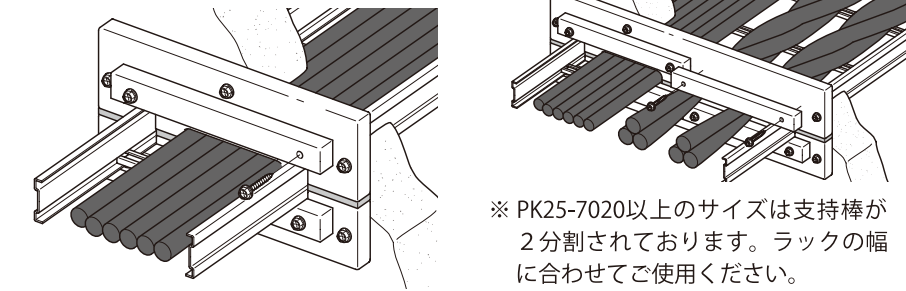
②位置決めした後、耐火仕切板25にドリルで下穴(φ5)をあけ、壁面にも下穴(φ5.3)をあけて充電ドリルドライバー等で壁固定用アンカー(M6×75)で固定します。長辺板固定間隔は420mm以下とします。



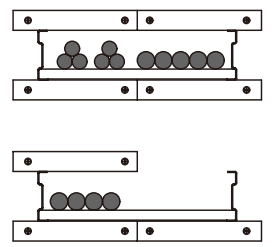
※壁の構造・材質によっては、それに適したアンカーボルトを別途お買い求めください。（M6×75mm以上）

## 3. ダンシール-P支持棒の取り付け

ダンシール-P支持用として付属の支持棒をケーブルラックの上下（またはケーブル上下）に取り付けます。



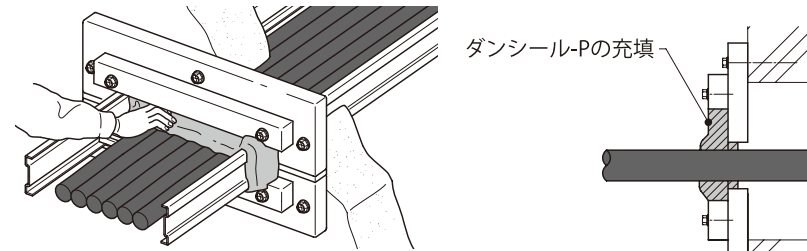
※PK25-7020以上のサイズは支持棒が2分割されております。ラックの幅に合わせてご使用ください。



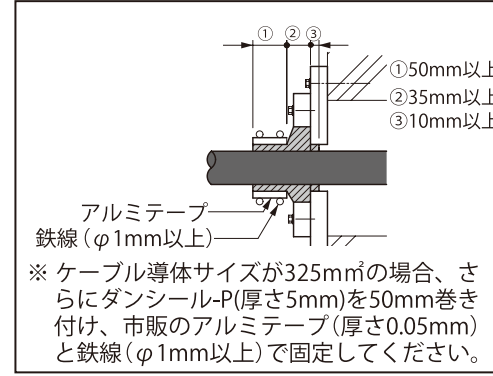
※ケーブルが部分的にしか配線されていない場合は上図のように支持棒を取り付けておくことも可能です。

## 4. ダンシール-Pの充填

ダンシール-Pを耐火仕切板25の表面から35mm以上盛り上げ成形します。



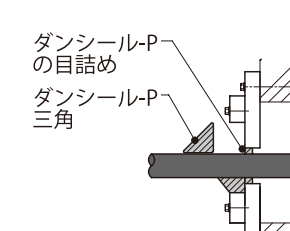
ダンシール-Pの充填



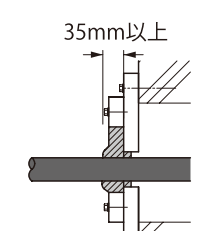
アルミテープ（厚さ0.05mm）と鉄線（φ1mm以上）で固定してください。  
※ケーブル導体サイズが325mm<sup>2</sup>の場合、さらにダンシール-P（厚さ5mm）を50mm巻き付け、市販のアルミテープ（厚さ0.05mm）と鉄線（φ1mm以上）で固定してください。

### 〈ダンシール-Pの目詰め方法〉

①ダンシール-P（シート）を使い、耐火仕切板25とケーブル及びケーブルラックの隙間を右図のように目詰めを行い、ダンシール-P三角をケーブル及びケーブルラック周囲を挟み込むように充填します。

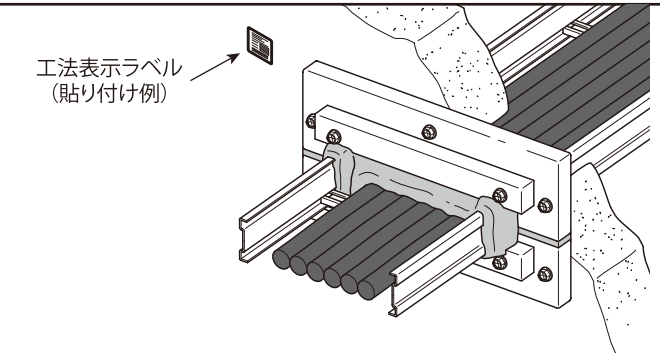


②ダンシール-P三角と支持棒の隙間の充填を行い耐火仕切板25の表面から25mm以上盛り上げ成形します。さらにケーブル周囲は35mm以上になるよう盛り上げます。



## 5. 施工完了

最終仕上がりを確認して施工完了です。最後に工法表示ラベルを見える位置に貼り付けてください。



工法表示ラベル（貼り付け例）